

1. 平成26年度水質概要

大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、周辺部を高崎山、九六位山、霊山、鎧ヶ岳、樅木山などの山々が連なり、市域の半分を森林が占めるなど豊かな緑に恵まれている。これらの山々を縫うように県下の二大河川である大野川と大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいる。その下流部には大分平野を形成しており、海岸部においては、北部沿岸海域は水深が深く、東部海岸は豊予海峡に面したリアス式海岸で天然の良港となっている。

市域は東西50.8km、南北24.4km、面積502.39km²と九州でも有数の広い市となっている。また、気象は瀬戸内海気候に属し、温暖で、自然条件に恵まれた地域である。

平成17年1月1日佐賀関町、野津原町と合併して新大分市が発足して以来、整備事業が進められ、平成26年3月31日の時点で、8浄水場を有し、10の水道水源から取水している。

平成26年度上半期は、水道水質について概ね良好であったが、10月中旬から11月末にかけて大分川水系において大規模な臭気障害が発生し、古国府浄水場とえのくま浄水場の両水系にて当市給水人口の6割にのぼる12万世帯に被害が及んだ。臭気障害の状況、発生原因、対応等については、P162「IX. 水質事故・障害等対応」に記載する。

臭気障害終息以降、水道水質は概ね良好であった。